

日本司法福祉学会 ニュース No.23

〒510-0293 三重県鈴鹿市岸岡町1001番地1 鈴鹿医療科学大学 藤原正範研究室気付
Tel: 059-383-9208 (内線2407) Fax: 059-383-9666

NOFSW 年次研究集会に参加して

前野育三

NOFSW の年次大会（4月11～13日、アトランタ）に参加してきた。アメリカで活躍する組織の中で、日本司法福祉学会に最も近いものを求めるならば、それはNOFSWであろう。しかしメンバーの構成は日本司法福祉学会ほど多様ではなく、National Organization of Forensic Social Services という名称のとおり、法廷での鑑定証言活動などを行う社会福祉関係者が中心のように思えた。法律家メンバーは少なく、犯罪者・非行少年の処遇現場の方も少ないようである。

今回の訪問で、日本の司法福祉学会について、かなり理解していただくことができたと思われる。その大きな原因は、われわれがこの年次集会 Conference で、シンポジウムを行い、日本からの参加者全員がシンポジウムで報告し討論に参加してきたからである。われわれのシンポジウム申込に対して、先方は3時間の全体シンポジウムの枠を準備してくれた。3時間というのはダブルセッション扱いだろうし、全体会なのでこの Conference 参加者全員が聞いてくれたわけである。単に交渉のための会談だけでは、われわれの関心の焦点を的確に伝えるのは難しかったと思われるが、シンポジウムでのわれわれ7人の報告を全参加者が聞いてくれたので、司法福祉学会の全体像をある程度正確に把握していただいたと思われる。3日目の早朝に理事会のミーティングに招かれて、今後の交流についての折衝を行ったが、お蔭でそれらすべてがスムーズに進行した。3時間の全体シンポジウムという返事をいただいたときには、正直かなり緊張したのも事実であるが、先方の好意的な反応に安心し、好印象を残して大会参加を終えることができた。

3日目（4月13日）の午前で大会が終わり、その後の1日半は、多くの人と会い、多くの機関を訪問・見学した。13日の昼食時には、修復的司法センターのパメラさん及びベックさんと、Conference の会場だった Renaissance

Waverly Hotel で会い、Emory 大学の Waldman 教授とは夕食時に懇談した。翌14日には、Juvenile Justice Fund を訪問し、ランチタイムを挟んで、長時間にわたって詳細な活動報告を受けた。少年裁判所の建物の中でNPOが活動し、大きな役割を演じていることに驚きを感じた。同日午後2時から、ジョージア州フルトン郡の地方検察局を訪問し、郡検事長を初め多数の検事が列席して、検察局の活動を説明してくれた。同じ建物の中に裁判所があり、陪審裁判の傍聴もすることができた。Conference 前日にキング牧師記念館を見学できたのも思い出深い訪問になった。

私は長年にわたって大学で仕事をしてきたのに英語がよくできないことに、いつもふがいなさを感じている。最近加齢に伴ってか、ますます hearing ができなくなり、舌も滑らかに動かなくなってきた。英語に関しては、通訳をやってくれた平山真理さん（白鴎大学准教授）に頼りきりだった。シンポジウムの申込や交渉、シンポジウム当日の討論部分の通訳、Conference 後の訪問先についての事前の交渉や当日の通訳など、大活躍であった。また、私は訪問団長という肩書きで行ったが、實際上、重要なことはすべて藤原事務局長にやっていただいた。私は、昨年まで司法福祉学会会長を務めながら、藤原さんがNOFSWとの連



前野育三前会長
来年神戸で開催される国際犯罪学会の宣伝旗
を掲げて、プレゼンテーションに臨む

携を重視しておられる意味をよく理解していなかったことにも気づいた。これこそ、日本司法福祉学会と最も共通性が高く、かつ活動水準の高い組織だと確信した。その連携の第一歩を築く場に同席できたことは幸いである。



NOFSW 第27回定期研究集会に参加した日本のメンバー、アトランタ市ダウンタウンにて

NOFSW（全米司法ソーシャルワーク協会）と第27回研究集会

藤原正範

1. NOFEW という組織

法廷で専門的証言を行ったり、ソーシャルワークの視点で法律家をサポートしたりするソーシャルワーカーの専門性を向上させるために活動する職能集団。正会員としての資格要件は、MSW（ソーシャルワーク修士）で3年以上のフォレンジック・ソーシャルワークの経験を有することである。資格要件に達しないソーシャルワーカーのための協力会員、ソーシャルワーク以外の専門職のための関連会員、フォレンジック・ソーシャルワーカーの現役としての役割を終えたリタイア会員の制度がある。現在、350人の会員を有し、15州にチャプター（支部）がある。

年1回、年ごとに開催州を変えながら年次研究集会を開催しており、2010年のアトランタ集会は第27回である。

会の事務局を担当するエグゼクティブ・ディレクターのポール・ブラディ氏は、民間組織のマネージメント業のプロフェッショナルであり、NOFSWのほか3つの組織（科学技術系組織や教育関係組織など）の事務を預かる。明るく、サービス精神に富んだ人物である。NOFSW事務局の所在は、ブラディ氏の事務所（コネチカット州ミッドタウン・サイトK・スミスストリート460）である。

2. 第27回研究集会の様子

2010年4月10日（土）、プレカンファレンスが終日実施され、翌11日（日）午前9時から13日（火）午後0時30分まで本集会が開催された。集会冒頭1時間15分を使って、会長あいさつ（ステイシー・ハーディ・デスモンド博士）と基調報告が行われた。基調報告は、刑事裁判ケース（Wiggins）の紹介と死刑減軽についてであった。会長も女性、基調報告者も女性である。報告中にも会場から合いの手が入り、報告者もにこやかにそれに応答するというように始終明るく、また参加者は朝食のパンと飲み物を片手にリラックスした雰囲気であった。大会出席者は延べ150人位である。

以降、ワークショップが、11日に10本、12日（午後）に7本、13日に8本開催された。ワークショップには1

時間半と3時間の2種類がある。主だったテーマを挙げると、「司法ソーシャルワークと修復的司法：調査、計画、効果的協力の構築」、「児童虐待ケース証言のキーポイント」、「クライアントの発達障害・学習障害を診断するときに直面する課題」、「親が刑務所に入ったとき：犯罪者の子どもへの刑事司法手続きのインパクト」などであり、司法領域、司法関連領域で活動するソーシャルワーカーの技術や方法を具体的に提示し、意見交換を行うものであった。それぞれのワークショップへの参加人数は、7～8人から多くても20人程度であり、最初、全員が名前と所属を交換し合うことから始まる。「児童虐待ケース証言のキーポイント」では、演者が提示したケースを、3グループに分けて検討するよう指示され、日本から参加した私たちも否応なく、その中に入れられた。

12日（午前）はプリーナリーセッション（全体会）であり、その3時間枠で、日本からの参加者7名が分担して「日本における司法とソーシャルワークの協働」と題するプレゼンテーションを行った。1人が15分程度、少年司法、家裁制度、更生保護、児童福祉、修復的司法等のテーマのほか、日本司法福祉学会の活動、NOFSWとの交流を求める事情等を講演した。出席者は50人くらいで、多くの質問があった。通訳の平山真理先生により、講演者と会場とのコミュニケーションも円滑に行われた。会場からの質問でもっとも印象に残ったのは「アメリカのソーシャルワーカーは（わからず屋の）法律家に主張を認めてもらうのに大変な苦勞をしているのに、日本の司法ソーシャルワークの団体に多くの法律家が参加しているというのを聞いて驚いた。その理由は何か」というものであった。もちろんこの質問に答えることはできなかった。

11日夜はレセプション、12日夕方は総会、13日早朝にはNOFSW役員と両組織の今後の交流をめぐって懇談会が開催された。11日のレセプションは参加者が少なく、役員と日本のメンバーにリタイア会員数名が加わるという程度であった。レセプションに、ステイシー会長（若い女性）のボーイフレンド、事務局のポールさんに事務所を貸

している家主（ジョンさん）が堂々と参加していたのには、いささが驚いた。また、元気で雄弁なのは、リタイア会員の皆さんであった。

3. NOFSW の役員

年次研究集会中の総会で、新役員が選出された。次のようなメンバーである。

会 長：スザンナ・ドーリング（MSW）
カリフォルニア州

前会長：ステイシー・ハーディ・デスモンド（PhD・LCSW・JD） ネバダ州

副会長：キャサリン・カーティ（PhD・MSW・LCSW）
ロードアイランド州

事務局長：スーザン・マッカーター（MSW・PhD）
ノースカロライナ州

会 計：ロバート・バターズ（PhD・LSCW） ユタ州

評議員：エルトン・ルイス（MSW） ウィシコンシン州

評議員：エルギー・ダウ（ACSW） ミシガン州

評議員：バイオラ・ボーガン・エデン（PhD・LCSW）

バージニア州

4. NOFSW 情報のアクセス

インターネット（ヤフー、グーグル等）で「NOFSW」を検索に掛け、「Home」というタイトルをクリックすると、「NOFSW」HPの画面が出てくる。その中のニュースレター



大会当時のNOFSW会長ステイシー・ハーディ・デスモンド博士（女性）、事務局を担うポール・ブラディ氏（男性）と藤原事務局長

をクリックすると、「オープン・コート」というタイトルの機関紙を見ることができるが、そこにNOFSWの組織や活動の状況を詳細に紹介してある。

現時点でのHPでは、年次研究集会の案内についてはアトランタ大会から更新されていない。来年の研究集会は「ニューオリンズ市」（ルイジアナ州）で開催されるということであり、秋には次回大会情報がアップされるであろう。

事務局からのお知らせ

会員動向（2010年5月末現在）

5月2日、理事会により加入が承認された新会員

堀田利恵（日本福祉大学大学院）
蒔田勝義（鈴鹿医療科学大学）
馬淵伸隆（津保護観察所）
関谷紀裕（津保護観察所）
丸山泰弘（龍谷大学矯正保護センター）
塚本恵美（日本社会事業大学大学院）

同日、10人の会員が理事会により退会を確認されました（うち2名は2010年度会費納入により2010年度末まで会員扱いします）。2010年5月末現在、会員数は381名です。

事務局からのお願い

2010年度会費の請求書をお送りしました。例年に比べ、多くの会員が早期納入にご協力してくださったことを感謝します。

未払いの会員の方の早期のご入金を期待しています。また、過年度の清算もお願いいたします。

なごや大会のご案内

なごや大会（2010年8月7～8日）の準備が着々と進んでいます。なごや大会に向けて嬉しいニュースも飛び込んできました。

NOFSW評議員のバイオラ・ボーガン・エデン博士（女性）が、この大会のメインイベントである記念講演の講

師として、来日してくださることになりました。同女史は、子どもの虐待を中心とした法廷でのソーシャルワーク専門職としての証言を400回以上行っているベテランのフォレンジック・ソーシャルワーカーです。現在、バージニア州ニューポート・ニュース市で女性や子どもを中心とした相談業務を独立開業されています。アメリカのフォレンジック・ソーシャルワークの活動を日本でお話していただくのは、もちろん歴史上初めてですし、実際のケースに即した経験豊かなお話を聴くことができるものと期待を膨らませています。

愛知・岐阜・三重三県社会福祉士会との共催になるプレ企画・シンポジウム「刑余者の福祉支援の実現の道を探る～権利の主体はいかにして回復するか」のコーディネーター、話題提供者、指定討論者がすべて決定しました。

第1日目（8月7日）の午後、シンポジウム「医療観察法の現状と将来像」（仮称）のコーディネーター、シンポジスト、指定討論者も決定しました。

第2日目（8月8日）の午前、分科会は、「バイオラ・ボーガン・エデン博士と語る会」ほか矯正と人権、被害・加害問題、児童自立支援施設、裁判員裁判と鑑定、成年後見制度の分科会が立ち上がりました。同日午後の自由研究発表には9人がエントリーしました。

本ニュースレターと同時に「なごや大会案内」を発送しますので、会員の皆様は、早目に同封の葉書により出欠等の連絡をお願いいたします。

※なごや大会の会場は「名古屋芸術大学」に変更されました。

会 計 報 告

日本司法福祉学会 2009 年度会計報告

(2009 年 4 月 1 日～2010 年 3 月 31 日)

(円)

	科 目	予 算	2009/6/30 中間決算	決 算
収入の部	前年度より繰越	1,332,311	1,332,311	1,332,311
	会費	1,228,000	886,000	1,083,000
	会費（過年度分）	300,000	195,000	312,000
	寄付（現金）	0	0	100,000
	寄付（その他）	0	0	0
	その他	0	461	370,796
	合計	2,860,311	2,403,772	3,198,107
支出の部	事務（通信費）	80,000	39,340	183,410
	事務（ニュース発行）	160,000	0	60,528
	事務（管理・労務）	250,000	35,260	200,022
	会議費	300,000	26,200	214,160
	大会補助	600,000	300,000	300,525
	予備費	770,311	0	126,905
	研究誌会計へ支出	700,000	0	609,415
	合計	2,860,311	400,800	1,694,965
次年度繰越額				1,503,142 円

日本司法福祉学会第 10 回全国集会東京大会の会計報告

(2009 年 8 月 8 日～2010 年 8 月 9 日)

(円)

	科 目	決 算
収入の部	学会からの入金	300,000
	会員参加費	342,000
	非会員参加費	152,000
	学生参加費	20,000
	弁当代金	43,000
	懇親会費	410,000
	合計	1,267,000
支出の部	物品購入費	5,273
	物品発送費	3,690
	シンポジスト交通費・謝礼	48,370
	分科会発言者謝礼	50,000
	学生等アルバイト料	260,000
	弁当・お茶代	97,493
	抄録集印刷費	72,000
	懇親会費	400,000
	打ち上げ会補助	13,640
	合計	950,466
残金（学会事務局に返金）		316,534 円

2010 年 3 月 31 日現在の財産状況（日本司法福祉学会）

1. 郵便振替残高	69,400 円
2. ゆうちょ銀行総合口座残高	1,428,142 円
3. 現金	5,600 円
以上の合計額	1,503,142 円

3 月 31 日、北澤信次監事、4 月 1 日、松宮満監事の会計監査を受け、適正に処理されているとの所見をいただきました（会計報告及び会計監査報告は 2010 年 8 月 7 日の総会で報告します。）

情報 BOX

裁判員裁判のための対人援助専門職ネットワーク 第 2 回全体会

日時：7 月 24 日（土）午後 1 時～4 時

会場：埼玉弁護士会館

（さいたま市浦和区高砂 4-7-20 電話 048-863-5255）

6 月 3 日に判決のあったさいたま地裁の 18 歳少年の強盗致傷ケース、全国各地の少年に対する裁判員裁判の実情の報告があり、参加者全員で意見交換する予定です。

会場が狭いので、参加者を事前に把握したいと考えています。参加希望者は、ファックス 018-825-1532（法テラス秋田）に「所属と氏名」を連絡してください（日本司法福祉学会事務局藤原にメールで連絡をしてくださってもいいです）。

日本司法福祉学会 2010 年度予算案

(2010 年 4 月 1 日～2011 年 3 月 31 日)

(円)

	科 目	予 算
収入の部	2009 年度より繰越金	1,503,142
	会費	2010 年度会費 1,250,000
		過年度会費 300,000
		入会金 20,000
		合計 1,570,000
	助成金・寄付	日立みらい財団助成金等 100,000
	その他	0
	合計	3,173,142
支出の部	事務局費	通信費 200,000
		管理労務費 200,000
		ニュースレター発行費 200,000
		会計監査費 100,000
		合計 700,000
	会議費	理事会費 300,000
		その他会議費 100,000
		合計 400,000
	全国大会費	実行委員会補助費 300,000
	学会誌編集費	編集委員会費 100,000
		生活書院編集委託費 550,000
		その他 50,000
		合計 700,000
	予備費	1,073,142
	合計	3,173,142

(本予算案は 2010 年 8 月 7 日の総会で提案します。)